

学術情報リテラシー教育の理論と動向

米澤 誠

（国立情報学研究所・学術コンテンツ課）

1. 学術情報リテラシー教育の理論

・リテラシーとは

リテラシーとは、あるコミュニティ（一般には国・地域）において生活（機能）するために必要な読み書き能力，さらには計算なども含めた基礎学力を指す。

（野末俊比古「情報リテラシー教育と大学図書館」、『図書館雑誌』, 102(11), 2008, p.762-765）

・情報リテラシーとは

情報リテラシーを、問題解決のために情報を主体的に活用する能力ととらえ、教育内容（目標）として設定するには、さらに具体化（細分化）し、「誰にとってのものであるか」を明確にしておく必要がある。ここでは、イメージしやすいように、「(主に教育・学習の場としての) 大学」というコミュニティにおける「大学生（いわゆる一般の学部生）」を念頭に置くこととする。（野末 2008）

情報リテラシーとは、「図書館（資料）」だけでなく、広く「情報」に関わる能力であり、また、情報の「探索・収集」だけでなく、「整理・分析」や「表現・発信」をめぐる知識・技能などが含まれるのである。（野末 2008）

情報リテラシーとは、情報が必要なとき、それを認識し、効果的に発見、評価、利用する能力。

（ALA による定義）

・情報リテラシー教育の実施状況

ー『学術情報基盤実態調査』

・図書館利用教育と学術情報リテラシー

利用教育は、「図書館利用者に対して図書館の効果的・効率的な使い方を伝える」という、いわば図書館の内部的な事情に基づいている。これに対し、情報リテラシー教育（という枠組みのなかで実施される利用教育）は、「大学生（利用者）に対して情報リテラシーの習得・向上を支援する」という大学全体の取り組み、つまり図書館にとっては外部的な要請に基づくものとなる。（野末 2008）

・コンピュータ・リテラシーに留まらないこと

ものごとを深く考える図書館員たちは、コンピュータ・リテラシーが実際のところ情報リテラシーの一部分に過ぎないということを認識している。彼らは情報社会が求めているのはコンピュータをつかいこなすだけの人間ではなく、情報をも使いこなすことのできる人間であるということにすぐに気がついたのである。図書館員たちは、こうした違いに大学管理者たちよりも早く気がついたが、それは彼らの方が賢いとか、読みが深いとかいう理由からではなく、情報管理が彼らの専門領域だからである。図書館員たちは常日頃、情報リテラシーを学んだり教えたりしているのである。

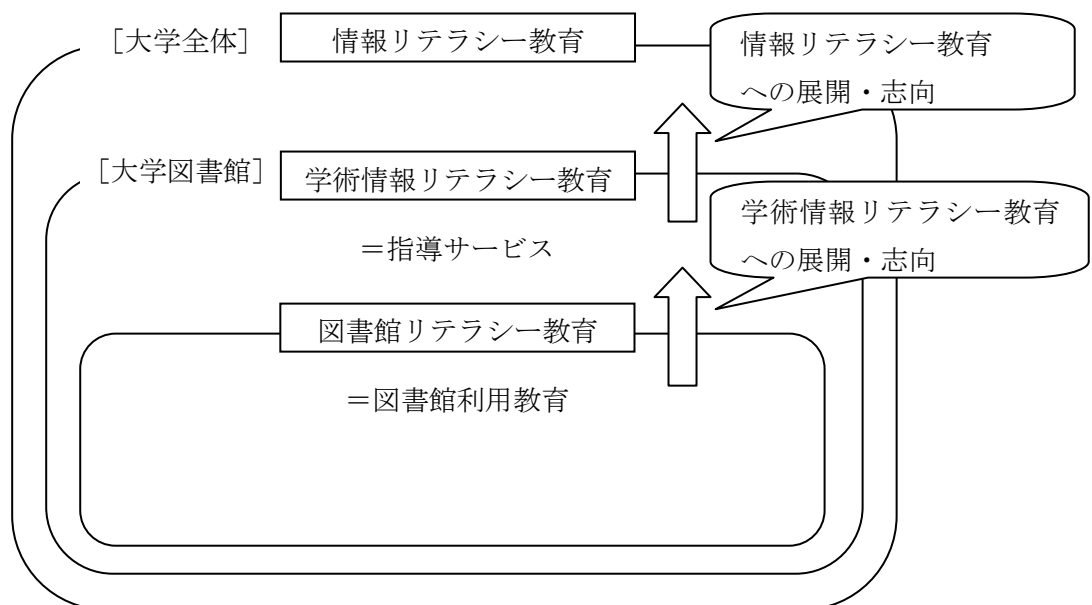
（ブレイク・ギー『情報を使う力』，勁草書房，）

・情報リテラシーの今日的理解

さて、電子化・ネットワーク化の進展・普及などに伴って、図書館における利用者教育の内容（目標）は「拡大」されてきた。（中略）すなわち、利用教育は、実質的に、情報リテラシー教育を志向しながら展開してきたともいえる。

しかし、（狭い意味，古い意味での）利用教育が、いわば「逐次的」「個別的」「単発的」に実施されてきたものだとするならば、今後は「計画的」「体系的」「組織的」に実施していきけるように「サービス」として確立していくことが求められる。そこで、情報リテラシー教育という枠組みのなかで実施される利用教育（広い意味，新しい意味での利用教育）を「指導サービス」と呼ぶことにしたい。（野末 2008）

・「リテラシー教育」概念の関係整理



2. 学術情報リテラシー教育の動向

2. 1 政策の動向

－IT 基本法（2001 年）

（教育及び学習の振興並びに人材の育成）

第十八条 高度情報通信ネットワーク社会の形成に関する施策の策定に当たっては、すべての国民が情報通信技術を活用することができるようにするための教育及び学習を振興するとともに、高度情報通信ネットワーク社会の発展を担う専門的な知識又は技術を有する創造的な人材を育成するために必要な措置が講じられなければならない。

『高度情報通信ネットワーク社会形成基本法』

－学術審議会建議（1996 年）

3. 電子図書館的機能の整備の方策

（6）情報リテラシー教育への支援

（前略）

電子的情報資料の有効活用を含めた、情報リテラシー（情報利活用能力）教育の重要性も認識されてきており、こうした情報リテラシーを前提とした、学生の自主的な学習活動も推奨されている。大学図書館は、これら電子的教材作成、情報リテラシー教育及び学生の自主学習等に対する支援において、その一翼を担うことが求められている。

『大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について（建議）』

－科学技術・学術審議会報告（2006 年）

2. 大学図書館を取り巻く課題

2. 5 図書館サービスの問題点

（イ）情報リテラシー教育の位置付けが不明確

（前略）

平成 15 年度からは国立情報学研究所(NII)が「学術情報リテラシー教育担当者研修」を実施し、多くの大学図書館員参加者がある。しかし現時点で、多くの大学で行われている情報リテラシー教育は教養教育及び各専門分野における教育との連携が不十分であり、効果が限定的である。

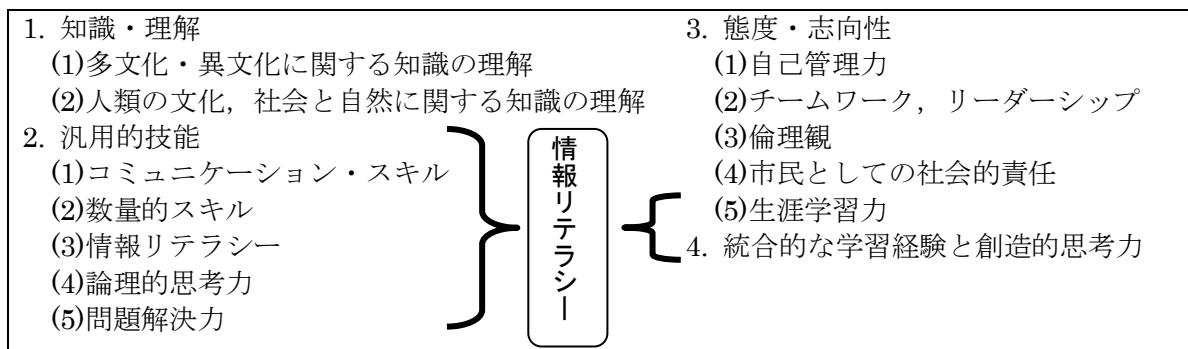
（ウ）利用者ニーズの把握が不十分

（前略）

なお重要度を失わない伝統的な紙媒体資料と電子情報資源の混在した情報環境において、研究者も学生も情報ニーズと利用行動に変化を来している。その一方で、検索スキルや情報源評価能力の格差は広がりつつある。大学図書館は、このような変化に対応できるように、具体的なサービス改善策等を検討する必要があるが、そのため利用者調査等により、利用者ニーズの把握に努める必要があるが、この取組みが十分になされている状況とは言いがたい。

『学術情報基盤の今後の在り方について(報告)』

ー中央教育審議会答申（2008 年）



ー科学技術・学術審議会報告案（2010 年）

*学生の学習支援（ラーニング・コモンズ，学生が学生を指導する体制，ライティングセンターの活動）

*教育活動への関与（情報リテラシー教育の強化，初年次教育への導入，図書館職員への関与）

2. 2 研究の動向

ー理論的な研究の流れ

ープログラム体系化の流れ

ー具体的な教育方法に関する流れ

2. 3 実践の動向（具体的な教育方法）

ー出張講座（出前講座）

ーPBL

ー教材・ツール開発（テキスト，パスファインダー）

ーリエゾン・ライブラリアン

ー初年次教育（導入教育）

ーレポート作成指導

3. 学術情報リテラシー教育（指導サービス）の要素

（a）マネジメント：Why

- ※「企画力」
- ※「評価」

（b）マーケティング・広報・PR：Whom

- －利用者（層・像）の把握・分析（セグメント化）
- －現代の学生の理解
- －大学の教育・学習の理解：アクティブ・ラーニングの動向
- ※「大学教育」

（c），（d）手順など（教員・学内との連携協力・分担，職員の技能・資質）：Who, When, Where

- －単発的指導サービスから，計画的指導サービスへ：らせん型の指導
- －体系的プログラムの中からの，個別的指導カリキュラム
- －授業との関わり
 - ・関連なし：講習会
 - ・学科関連指導：授業の1コマに図書館員が出向いて指導を行う
 - ・学科統合指導：授業の中に図書館，資料・情報の利用法の指導を指導内容として組み入れ，図書館員と授業担当教員とが協力，分担して授業を行う
 - ・独立学科指導：「文献探索法」などの授業科目として実施
- ※「初年次教育」

（e）指導内容：What

- ※「学術コンテンツサービス」

（f）指導方法・手段手法：How

- ※「プレゼン技法」

以上